

(第三種郵便物承認)

視点

私は地域おこしを考える時、①既存を生かす②連携を創る③未来を描くの三つを大切にしている。例として大寒に開催される四万温泉「湯立祭」を紹介したい。

【既存】御夢想の湯が2006年に造り替えられた。その際、多くの人に知ってもらう方策を考えた。四万発祥の湯と言いつつもその湯の歴史を知るため、青年部の仲間と旧中之条町歴史民俗資料館(現ミューゼ中之条)を訪れて目を留めたのが、1712(正徳2)年に重要文化財薬師堂に奉納された大きな絵馬だった。御夢想の湯の前でくみ上げた釜を中心に太鼓を鳴らし、神官が湯立をしているさまが描かれていた。自然の恵みに感謝を込めて奉納された絵馬の風景を基に、温泉湯立神事の湯立祭を再現した。

【連携】中之条町長、ゆるキャラグランプリのぐんまちゃんに応援に来てもらい、四万温泉旅館部、商業部、青年部、地域づくり委員会を中心に多くの人の協力でイベントが立ち上がった。自然の恵みや温泉に感謝を込めると同時に、お客さまへ四万人の心を込めたおもてなしでもある。無病息災を願う敵かな湯立の神事から始まり、青年部によるお客さま参加の湯餅つき、中之条太鼓の腹に響く荘

厳な演奏、旅館部と商業部の湯継ぎの対抗戦、そして四万温泉全体から集めた宿泊券を含む豪華景品が当たる福まんじゅう投げが行われる。この日解禁の日本酒「四万



中之条町四万

よしのり
良則

せき
関

四万温泉協会会長

湯立祭再現で魅力発信

日から21日の4日間で、12月1日より四万温泉協会会で受け付ける予定である。この企画は好評で数日ではぼぼ売り切れしてしまう。前回の湯立祭を薬しんだお客さまの言葉が印象的だった。「日本一得するお祭りだ。来年は友達も連れて来よう」。このような評価を頂けたのも多くの人との連携により、魅力的なイベントができたおかげである。

【未来】既存のものを何と連携させてどんな将来を描くのか。知名度の低い温泉地を広く知ってもらうには湯立祭もチャンスの一つ。有名な川原湯温泉の湯かけ祭りは同日の早朝なので、両方楽しんでもらう提案ができるかもしれない。四万人のホスピタリティーと清流四万川を代表とする上信越高原国立公園の自然の美しさ、そして何よりも四万の病に効くという名の由来にあるように自然湧出の源泉に恵まれた泉質の良さを多くの方に感じてほしい。

上毛かるた「世のちり洗う四万温泉」で知られた癒やしの温泉地は、お客人の心も体も健康にする力を持っている。潜在的な魅力を掘り起こし、住んでいる人、応援してくれる人がひとつになり、訪れる人も一緒に心豊かに過ごせる、皆の故郷になるのが目指す未来である。

の一滴」と、とん汁が無料で振る舞われるのも大きな魅力である。さらに旅館は限定で通常料金の半額にてお部屋を提供している。次回は1月18

四万温泉の地域おこし

【略歴】国学院大卒。日本旅行退社後、四万温泉に戻り、家業の旅館「つるや」の社長に就任。元中之条町議1期。中之条中剣道部外部講師。著書に『奇跡の軌跡』。